

Table of Contents

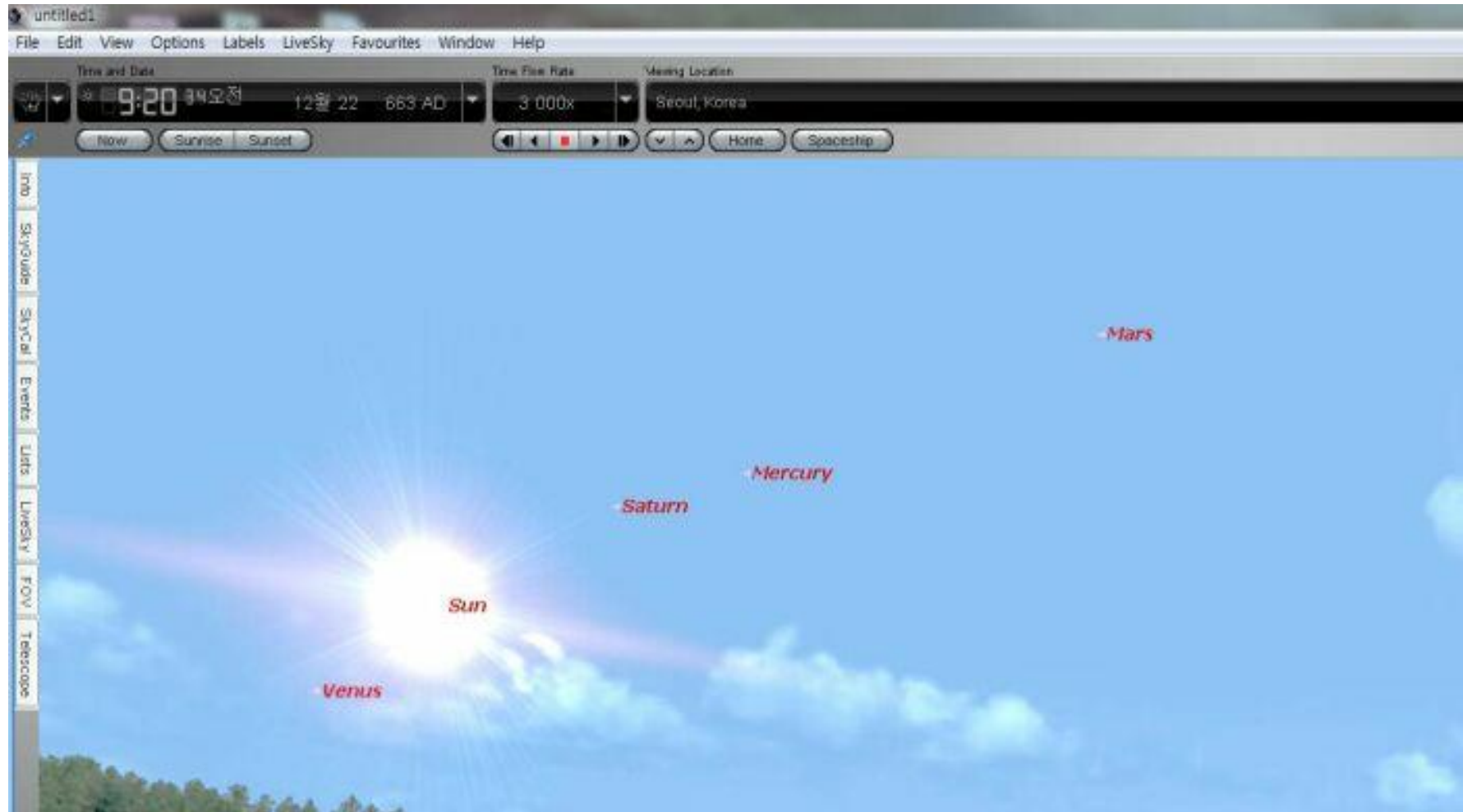
I. 三機能体系としての東洋天文学

II. 東アジア三機能体系の変遷

III. 東洋天文学における663年の意味

IV. 663年
白村江の戦いの三機能体系としての意義

663年の冬至は六十甲子の始まりの日付に比定される



パク・ヨンギョ『立体五行』より、

663年の冬至は六十甲子の始まりの日付に比定される

甲子時となる子時（子時）は真夜中で、我が国ソウルの反対側に位置し見ることができないため、**AD663年12月22日09時20分**を基準に、当時ソウルの北東北に現れた現象のシミュレーション映像である。実際には太陽光のため見ることは難しいが、実際の位置を表記したものである。ここで北東北の四星（四星；金星=venus, 土星=saturn, 水星=mercury, 火星=mars）は見えるが、木星であるJupiterが見えないのは、木星が地球の東側にあるためである。なぜなら癸亥年・甲子月・甲子日の干支は水水年・木水月・木水日であり、方向では北北・東北・東北であって、4北2東（地球を含む）が成立するため、生まれた各地の干支（干支）を解釈すれば体質が分かる、ということが証明される。（ここでの方向は天球を基準とせず地球を基準とするため、決して一直線になることはないが、地球の北東側で直線のように見えるという意味である。）

パク・ヨンギョ『立体五行』より、